



病害虫発生予察情報予報第12号(3月の予報)


佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

| 作物名 | 特記事項 |
|-----|--|
| 大麦 | 1. 網斑病 本年の発生は例年に比べて早く、一部圃場でわずかに認められる。春期の蔓延を防止するため、発生圃場では薬剤防除を実施する。 |

| 作物名 | 病害虫名 ^{注1)} | | 3月の予想発生量 ^{注2)} | | 病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病害虫(抜粋) |
|---|---------------------|-------|-------------------------|-----|------------------------------|---|
| | | | 平年比 | 前年比 | | |
| タマネギ | べと病 | 早生マルチ | 多 | 多 | 260~262 |  タマネギ べと病 一次伝染株 |
| | | 中晩生 | 多 | 多 | | |
| | ボトリチス葉枯症 | | やや多 | 多 | 263 | |
| | 白色疫病 | | 多 | 多 | 264~265 | |
| | ネギアザミウマ | | やや多 | 多 | 270~271 | |
| 1. べと病 3月となり本病の二次伝染期に入っている。被害を抑えるには、今後の防除対策が重要であるため、「伝染源となる一次伝染株の速やかな抜き取り」と、「定期的な切れ目ない薬剤防除」を地域ぐるみで確実に実施する(平成31年2月8日および21日付け病害虫対策資料第12、13号参照)。 | | | | | | |
| イチゴ(本圃) | ハダニ類 | | 並 | やや少 | 208~209 |  ハダニ類 |
| | うどんこ病 | | やや多 | 多 | 198~200 | |
| | 灰色かび病 | | やや多 | 多 | 201~202 | |
| | アブラムシ類 | | 多 | 並 | 213~214 | |
| 1. 親株での立枯性病害 健全苗を育成するため、健全な親株を使用するとともに雨よけ育苗を行う。炭疽病については、ランナー伸長初期からの定期的な薬剤防除を実施する。 | | | | | | |
| キュウリ | べと病 | | 多 | 多 | 178~179 |  キュウリ うどんこ病 |
| | うどんこ病 | | 多 | 多 | 176~178 | |
| | 褐斑病 | | やや多 | 多 | 181~182 | |
| | 灰色かび病 | | 多 | 多 | 179~180 | |
| | アザミウマ類 | | やや少 | 並 | 190~191 | |
| | コナジラミ類 | | 並 | 並 | 189~190 | |
| 1. ミナミキイロアザミウマ：黄化えそ病 黄化えそ病を媒介するミナミキイロアザミウマに対する薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去し処分する。 | | | | | | |

| 作物名 | 病虫害名 ^{注1)} | 3月の予想発生量 ^{注2)} | | 病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病虫害(抜粋) |
|---------|--|-------------------------|-----|------------------------------|---|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| トマト | 葉かび病 | 多 | 多 | 225~226 |  葉かび病 |
| | 灰色かび病 | やや多 | 多 | 220~221 | |
| | コナジラミ類 | 多 | 多 | 151~153 228~230 | |
| | 1. 葉かび病 春期の蔓延を防止するため、発病部位の早期除去、定期的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせで防除する。 | | | | |
| | 2. タバココナジラミ：黄化葉巻病 黄化葉巻病を媒介するコナジラミ類の発生が多い。本虫に対する薬剤防除を徹底するとともに、ウイルス病罹病株の発生を認めた場合は早急に除去処分する。また、野外からの媒介虫の飛び込み防止にも努める。 | | | | |
| ナス | すすかび病 | やや多 | 多 | 235~236 |  灰色かび病 |
| | 灰色かび病 | やや多 | やや少 | 234~235 | |
| | 菌核病 | 多 | 多 | 237 | |
| | アザミウマ類 | やや少 | 並 | 154~158 241~242 | |
| | コナジラミ類 | 並 | 並 | 151~153 242~243 | |
| 施設果菜類共通 | 1. 病害全般（灰色かび病、菌核病、すすかび病、葉かび病、べと病、うどんこ病、疫病、褐斑病） こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想される際には、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。 | | | | |
| | 2. 虫害全般（アザミウマ類、コナジラミ類、アブラムシ類） 気温が高くなるに従い、施設内の害虫の増殖が盛んになるとともに、施設内への飛び込みが増加する。多発生を防ぐため、低密度時からの薬剤防除を実施する。 | | | | |

| 作物名 | 病虫害名 ^{注1)} | 3月の予想発生量 ^{注2)} | | 病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病虫害(抜粋) |
|--|--|-------------------------|-----|------------------------------|--|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| カンキツ | かいよう病 | やや多 | 多 | 213~215 |  ミカンハダニ |
| | ミカンハダニ | 多 | 多 | 234~237 | |
| | 1. かいよう病 前年発生園や風当たりが強い園、罹病性品種（レモン、ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、発芽前の3月上旬に必ず銅剤を散布する。 | | | | |
| 2. ミカンハダニ 一部圃場で発生が多い。冬期に越冬虫対策でマシン油乳剤を散布できなかった場合は、発芽前の3月上旬にマシン油乳剤を散布する。 | | | | | |
| ナシ | 1. 黒星病 落葉は主要な伝染源となるので、除去・処分するとともに、発芽直前及び発芽初期の防除を徹底する。 | | | | |

1. かいよう病

枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状（右写真参照）の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。また、すべての園において、6月まで感染防止のための銅水和剤及び抗生物質剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する。



かいよう病菌を含んだ樹液の漏出

| 作物名 | 病虫害名 ^{注1)} | 3月の予想発生量 ^{注2)} | | 病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病虫害(抜粋) |
|-----|---|-------------------------|-----|------------------------------|--------------|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| 茶 | カンザワハダニ | やや多 | やや多 | 410~411 | |
| | <p>1. カンザワハダニ 発生葉は少ないものの多くの圃場で発生がみられる。多発してからでは防除効果があがりにくいので、萌芽前までの防除を徹底する。</p> <p>2. チャトゲコナジラミ 発生圃：越冬幼虫の密度を低く抑えるため、萌芽前までにマシン油乳剤による防除を行う。 改植圃：改植する場合は、定植する苗木に本虫の寄生がないか確認する。本虫が寄生していた場合は枝葉を落として定植し、定植直後にマシン油乳剤を散布する。除去した枝葉は土中に埋設するなど適切に処分する。</p> <p>3. 赤焼病 本年は発生が多い。被害拡大防止のため、発生を認めた場合は直ちに銅剤の散布を行う。</p> | | | | |

| 作物名 | 病虫害名 ^{注1)} | 3月の予想発生量 ^{注2)} | | 病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)} | 予報対象の病虫害(抜粋) |
|---|---------------------|-------------------------|-----|------------------------------|-------------------|
| | | 平年比 | 前年比 | | |
| キウ | 白さび病 | やや多 | 多 | 386~387 | <p>クロゲハナアザミウマ</p> |
| | アザミウマ類 | 多 | 多 | 391~392 | |
| | アブラムシ類 | 並 | 並 | 393~394 | |
| | ハダニ類 | 並 | 並 | 392~393 | |
| | ハモグリバエ類 | 並 | 並 | 395~396 | |
| <p>1. クロゲハナアザミウマ 一部圃場で発生が多い。成長点や葉裏での発生状況をよく確認し、低密度時からの薬剤防除を実施する。薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。</p> | | | | | |

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去10年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

3月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する3月の気象条件については、福岡管区気象台発表の3ヶ月予報（平成31年2月25日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

| 要素 | 3ヶ月予報における3月の気象予報（確率予報%） | | | 病害虫の発生に関与する気象条件（平年比） |
|-----|-------------------------|------------------|--------|----------------------|
| | 低い(少ない) | 平年並 (佐賀市の平年値) | 高い(多い) | |
| 気温 | 10 | 30 (9.9℃) | 60 | 高い |
| 降水量 | 20 | 40 (129 mm) | 40 | やや多 |

Ⅲ. 3月の予報

タマネギ

定期調査 20 圃場
調査日：2月18、20日



定期調査圃場の様子

1. ベと病（早生マルチ）

1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.01%（平年0.10%、前年0.01%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、
多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

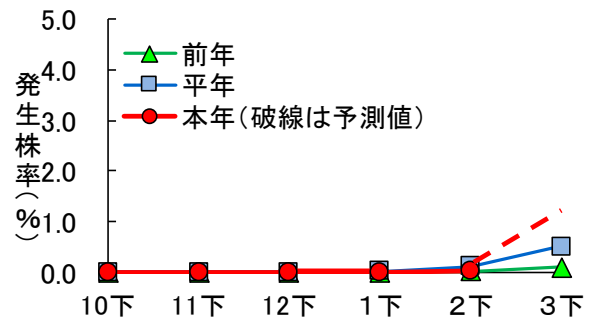


図1 早生マルチタマネギでのべと病の発生推移

2. ベと病（中晩生）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.10%（平年0.00%、前年0.00%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、
多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



定期調査圃場の様子

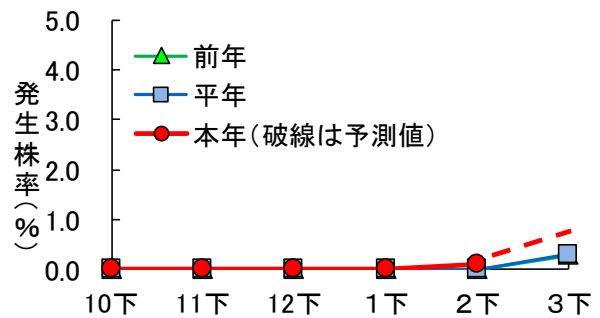


図2 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.2%、前年0%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、
多発生の条件（+）

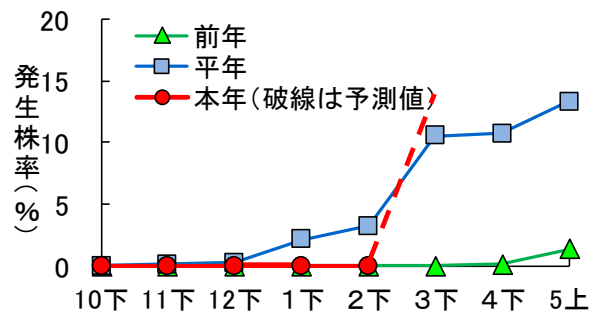


図1 タマネギボトリチス葉枯症の発生推移
注) 4月下旬以降は、中晩生品種を中心に調査

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

4. 白色疫病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 12月～2月上旬の気象

佐賀市の平均気温は平年より高く、降水量は並～やや多く、やや多発生の条件であった。（±～+）

(3) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに薬剤防除を実施する。

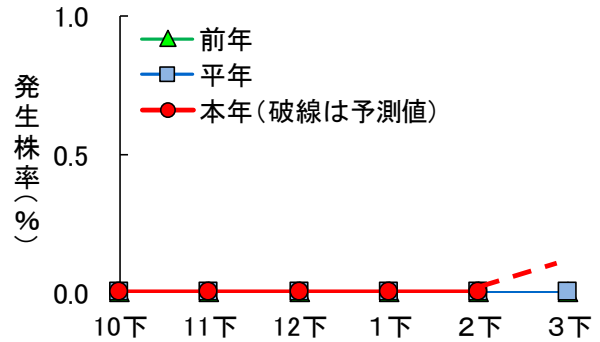


図1 タマネギ白色疫病の発生推移

5. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年やや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.8%（平年2.1%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温は平年より高く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期にかけむらがないように薬剤防除を実施する。

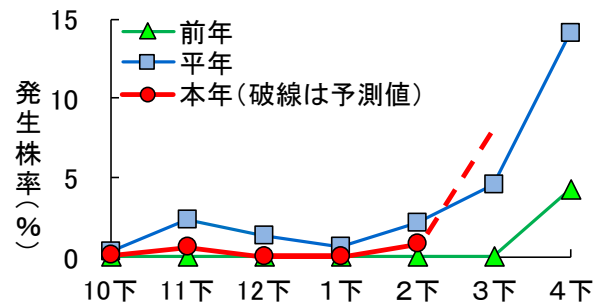


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中晩生品種を中心に調査



イチゴ（本圃）

定期調査 11 圃場、防除員 6 圃場
調査日：2月21～25日

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の実況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：8.5%（平年 15.9%、前年 23.5%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：少（-）

② 定期調査以外の圃場において、発生が多い圃場がある（±～+）

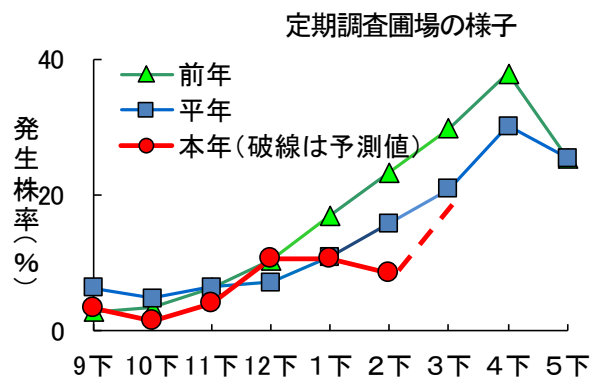


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.4%（平年3.2%、前年0.2%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉および果実での発生状況に合わせ、約2週間～1ヶ月間隔の薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。

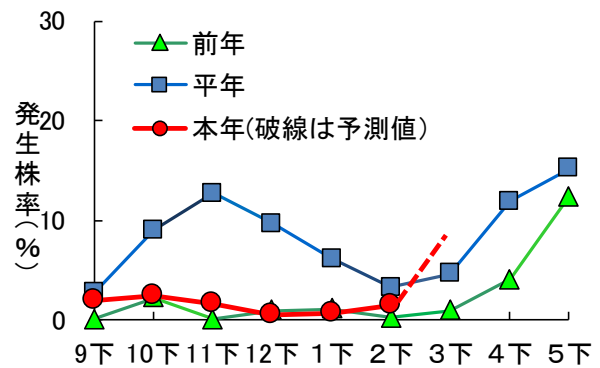


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりよりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 巡回調査（図1参照）

発生果率：0.82%（平年0%、前年0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量は平年よりやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 受粉後に残った花弁が果実での発生の原因となるので、ブローア一等を用い定期的に花弁を除去する。
(2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

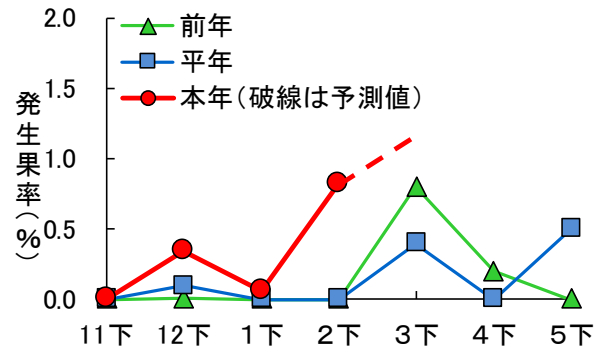


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

4. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：1.6%（平年0.2%、前年1.6%）

平年比：多（+） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、発生初期にミツバチへ影響の小さい薬剤を散布する（県病害虫防除のてびき P541～544）。
(2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

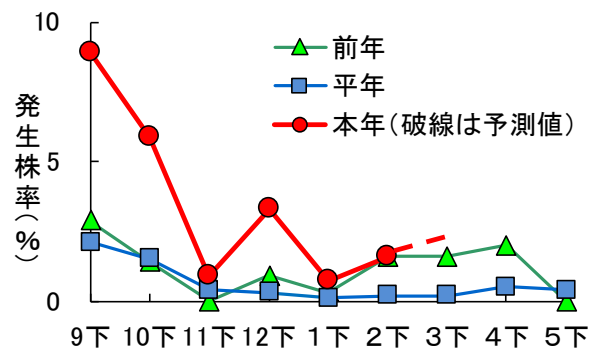


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ

定期調査7圃場
調査日：2月21日～25日



定期調査圃場の様子

1. ベと病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：5.0%（平年1.3%、前年0%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
 - ② 3月の気象予報
気温は平年より高く、降水量は平年よりやや多いことから多発生の条件（+）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 発生初期に薬剤防除を徹底する。
 - (2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

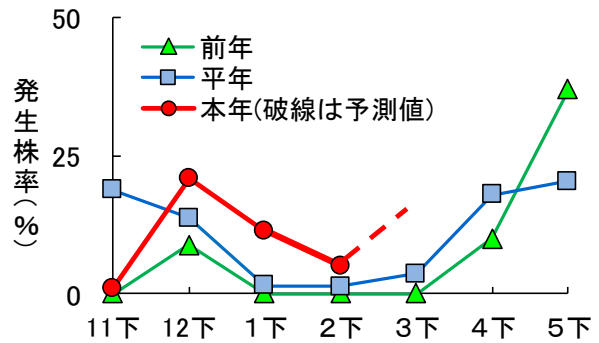


図1 キュウリべと病の発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：11.4%（平年3.0%、前年2.1%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
 - ② 3月の気象予報
気温は平年より高く、降水量は平年よりやや多いことから多発生の条件（+）
 - (2) 防除上注意すべき事項
 - (1) 硫黄粒剤のくん煙や硫黄水和剤等の耐性菌が出にくい剤を組み入れて薬剤防除を行う。
 - (2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

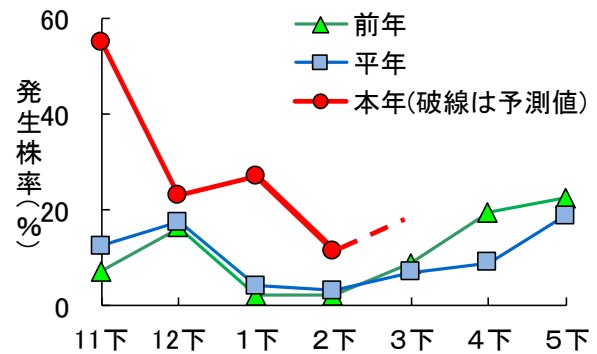


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. 褐斑病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：2.1%（平年5.0%、前年0%）
平年比：並（+） 前年比：並（+）
 - ② 3月の気象予報
気温は平年より高く、降水量は平年よりやや多いことから多発生の条件（+）
 - (2) 防除上注意すべき事項

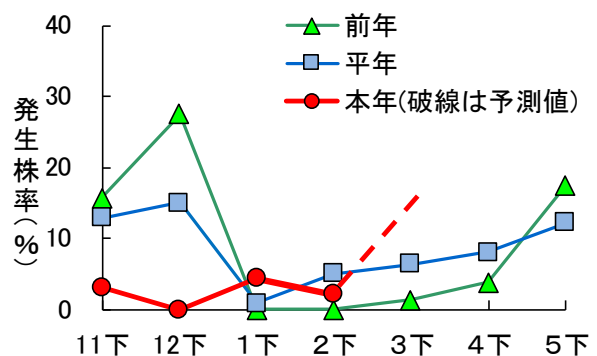


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

- (1) 発生初期に薬剤防除を徹底する。
- (2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

4. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0.1%（平年0%、前年0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 3月の気象予報

気温は平年より高く、降水量は平年よりやや多いことから多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に薬剤防除を行う。
- (2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

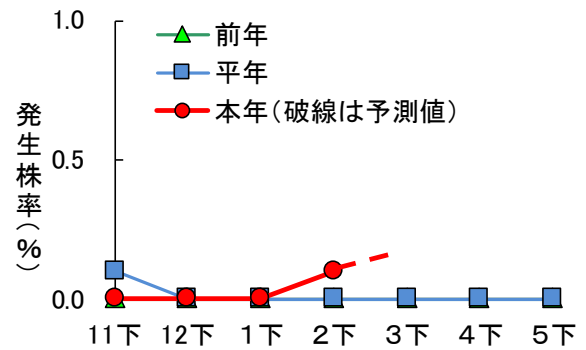


図1 キュウリ灰色かび病の発生推移

5. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.4%、前年0%）

平年比：やや少<-~±> 前年比：並<+>

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項（キュウリ、施設果菜類共通）を参照。

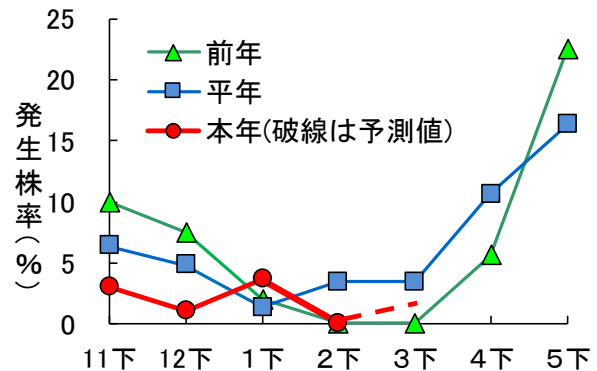


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

トマト

定期調査：8圃場、防除員調査：6圃場
調査日：2月21～25日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：15.4%（平年2.8%、前年8.6%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項（トマト、施設果菜類共通）参照。

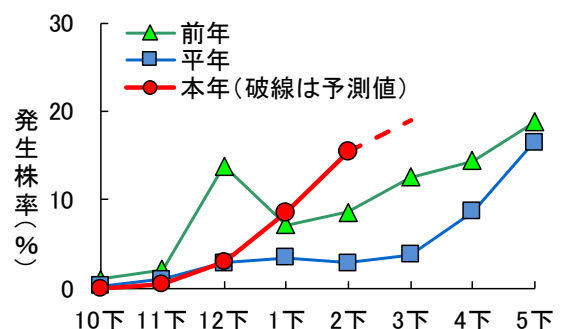


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：2.9%（平年6.0%、前年1.8%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（施設果菜類の項）参照。

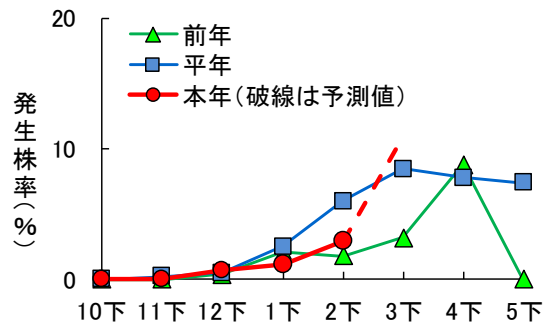


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：4.6%（平年1.4%、前年1.1%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項（トマト、施設果菜類共通）を参照。

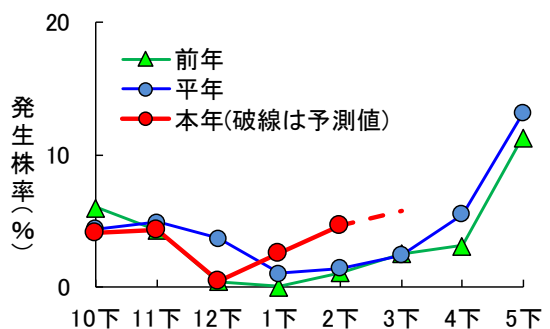


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

ナス（促成）

定期調査：13圃場
調査日：2月20～22日



定期調査圃場の様子

1. すずかび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：9.2%（平年14.8%、前年8.1%）

平年比：やや少（-〜±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本病の発生を低く抑えるために、初発生を確認後、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。散布の際は、これら剤の総使用回数に注意する。

(2) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。

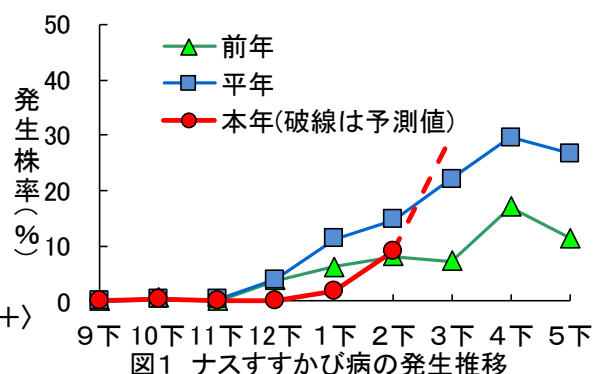
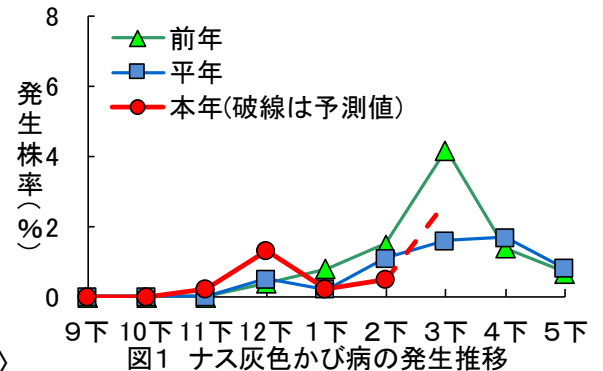


図1 ナスすずかび病の発生推移

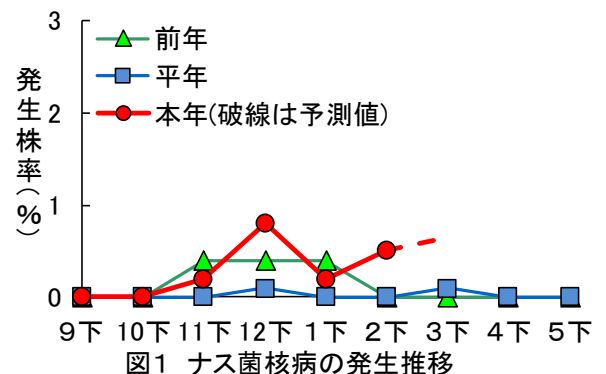
2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0.5%（平年1.1%、前年1.5%）
平年比：やや少（一～±） 前年比：やや少（一～±）
 - (2) 3月の気象予報
気温が平年より高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 果実に残った花弁はできるだけ取り除き、過湿にならないよう定期的に換気を行う。特に、『PC 筑陽』は花弁が残りやすいので、確実に取り除く。
 - (2) 発生を認めた場合には、発病部位は早めに除去し、防除を実施する。
 - (3) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。



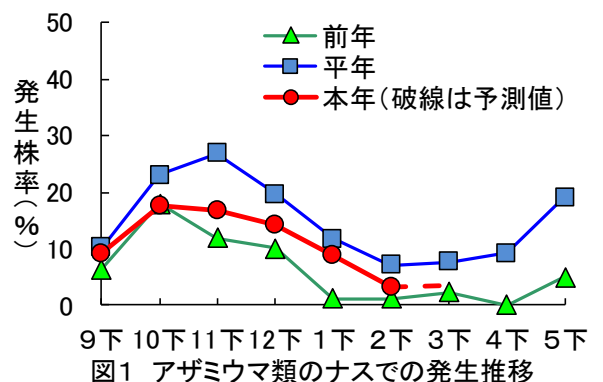
3. 菌核病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0.5%（平年0%、前年0%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
 - (2) 3月の気象予報
気温が平年より高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 灰色かび病の項と同じ。



4. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや少ない（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：3.1%（平年7.1%、前年1.2%）
平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
 - (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
 - (3) その他については特記事項（施設果菜類の項）参照。



5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：5.4%（平年11.4%、前年3.5%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) アザミウマ類の項と同じ。

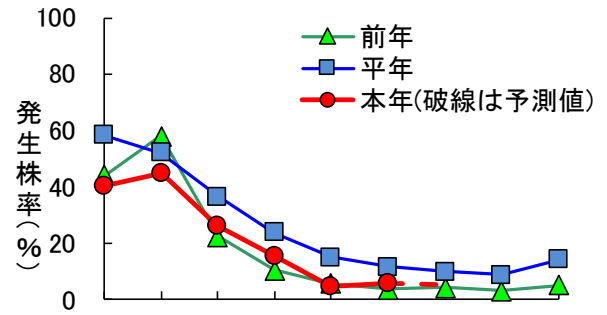


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移



定期調査圃場の様子

カンキツ

定期調査：8圃場

調査日：2月20～22日

1. かいよう病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0%（平年0.1%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件<±～+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 前年の罹病葉及び罹病枝は伝染源となるため必ず除去する。ただし、強剪定を行うと、枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので適切に剪定を行う。

(2) その他については、特記事項を参照。

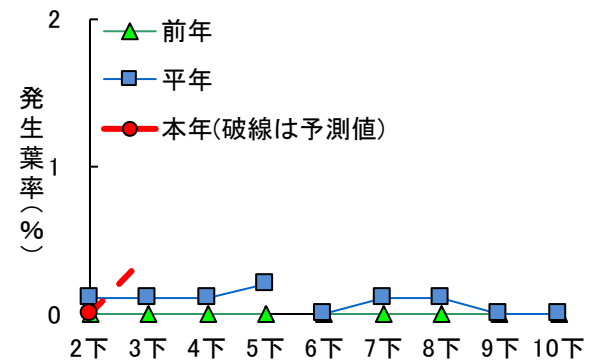


図1 カンキツかいよう病の発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

2. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：3.9%（平年1.8%、前年0.9%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 3月の気象予報

気温は高いものの降水量がやや多く、やや多発生の条件<±～+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

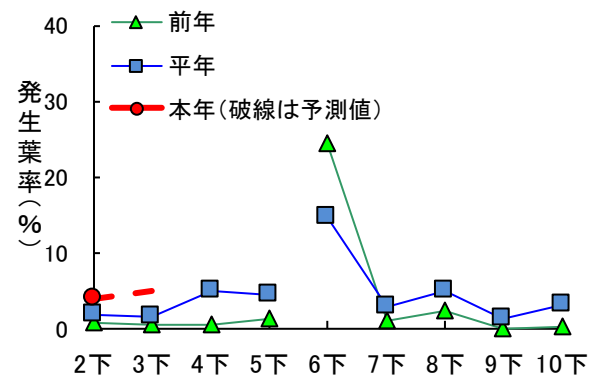


図1 ミカンハダニのカンキツでの発生推移

（注：5月下旬までは旧葉、6月以降は新葉を調査）

茶

定期調査：7圃場
調査日：2月20～22日



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.7%（平年5.3%、前年0.9%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が高いものの降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。

(2) その他については、特記事項参照。

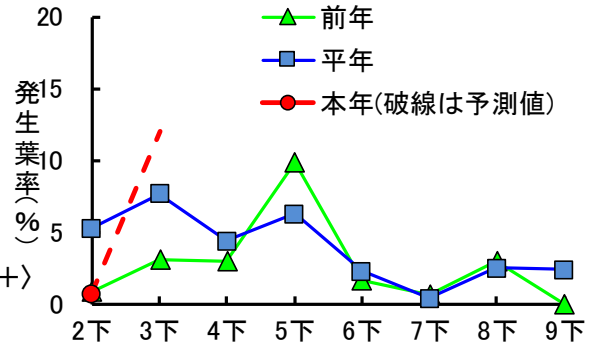


図1 カンザワハダニの茶での発生推移

キク

定期調査（8圃場）
調査日：2月20～22日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率0%（平年3.3%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温が平年より高く、降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）← 年末出荷 → ← 4～5月出荷 →

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図るとともに、薬剤による予防防除に努める。薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。

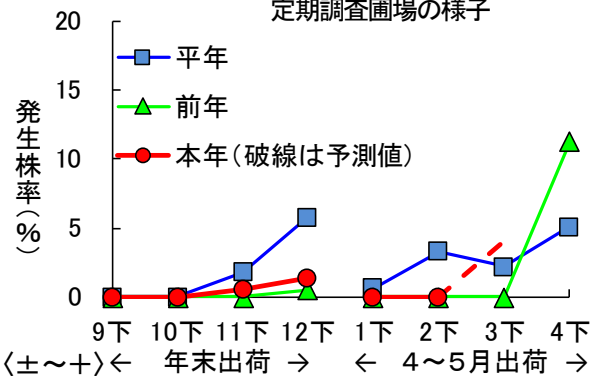


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率9.8%*（平年1.0%、前年1.0%）

*調査した8圃場のうち2圃場で発生がみられ、うち1圃場で発生株率70%の圃場があった。

平年比：多（+） 前年比：多（+）

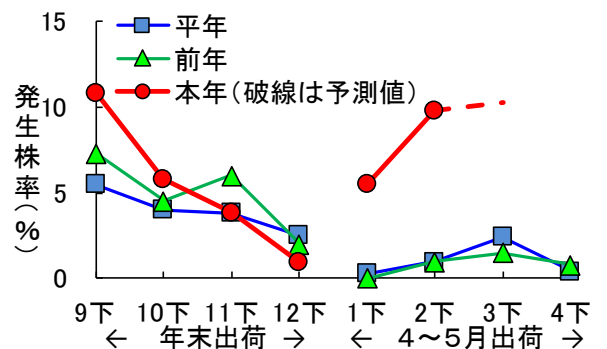


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 1.0%（平年 0.7%、前年 0.3%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

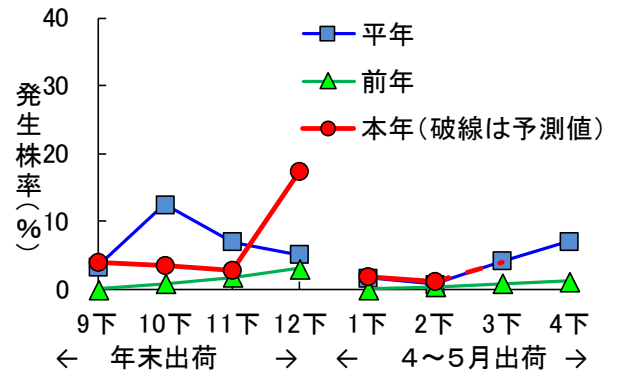


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5042
Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp